

2022年度事業報告書（案）

特定非営利活動法人 せんだいアビリティネットワーク

文中、障がい者と表記すべき箇所も含め、固有名詞を構成している場合も散見されるため、統一して「障害者」と表記

2022年度は、従来から行ってきた各事業について、コロナ禍が引き続く中、少なからず影響を受けながらも粛々と進められ、経営的に甚大な影響を被ることがなかった。しかし、年度末に事務局長の辞職という大きな転機を迎えたため、法人体制の再構築が課題として残されることとなった。

ともあれ、各事業別に展開された事業内容について下表の項番順に報告する。

【2022年度せんだいアビリティネットワーク実施事業】

事業名	事業内容	事業名・活動内容
1. IT 支援事業	1. IT 講習事業（1. 仙台市バーチャル、 2. 宮城県）	・障害者バーチャル工房事業
	2. IT サポート事業（1. 仙台市重コミュ、 2. 宮城県）	・重度障害者コミュニケーション支援センター事業
	3. パソコンボランティア養成等業務（宮城県）	・みやぎ障害者 IT サポートセンター業務
	4. IT 支援関連事業	・1. 意思伝達装置等の機器販売 ・2. 収入獲得支援（依頼対応）
2. 福祉支援事業	1. 自助・自立のための支援事業	・協議のみ
	2. 福祉支援関連事業	・福祉名刺/・卓上カレンダー販売
3. 各種委託事業	1. ホームページ更新委託	・ホームページ更新作業委託
	2. 伝の心カスタマーセンター業務委託	・伝の心カスタマーセンター業務 ・レンタル品の検品業務
4. 資格認証事業	1. 重度障害者 ICT 支援コーディネータの資格認証	・申請に対する審査・資格認証
5. 障害福祉サービス	1. 障害者就労継続支援 B 型事業所	・生産活動機会の提供 ・就労に必要な知識や能力の訓練
6. その他 助成事業	1. ソフトバンク・ソーシャルチャレンジ	・研究開発や成果発表

1. IT 支援事業

1. 1. IT 講習事業

計画に従って、仙台市の委託事業（バーチャル工房事業）および宮城県の委託事業（みやぎ障害者 IT サポートセンター）の一部、の 2 つの委託事業に取り組んだ。

1. 1. 1. 仙市委託分（バーチャル工房事業）

2022 年度は、事業計画に従って、入門・応用の 2 コースに分けた「2 次元 CAD」、「ビットマップ画像編集」、「デザイン概論」、「動画編集」、「ベクター画像編集」、「HTML・CSS」の 7 講座を実施した。さらに、事業予算の余剰を活用して「2 次元 CAD」と「デザイン」の講座を補講として実施した。実施状況の概要は下表の通り。

講座名	実施時間	開催形式	会場	受講者数
2 次元 CAD 入門講座	8 h	ハイブリッド	宮城県障害者福祉センター オンライン	4
2 次元 CAD 応用講座	8 h	〃	〃	3

ビットマップ画像編集講座	8 h	//	//	3 (見学1)
デザイン概論	6 h	//	//	6
動画編集	15 h	//	//	3
ベクター画像編集	8 h	//	//	5
HTML・CSS	12 h	//	//	3
補講：2次元 CAD	6 h	オンライン	講師宅からのオンライン	3
補講：デザイン講座	9 h	ハイブリッド	宮城県障害者福祉センター オンライン	3
全 9 講座	全 80 時間	—	—	33 名(見学1)

2021 年度の経験から、2022 年度は感染拡大の予防策として当初から、対面およびオンライン配信の**ハイブリッド形式の開催を中心**とした。また、2 つの補講講座によって、2021 年度より**開催時間数が 19 時間、受講者数が 18 名とそれぞれ増加**した。要因として、当初よりハイブリッド開催を計画・募集を行ったため、希望者が参加しやすい環境が保証されたため受講者増へと結びついたことが考えられる。

＜周知方法＞

バーチャル工房事業ホームページでの掲載、関係機関への講習会案内設置依頼（下表、28 か所）、これまでの受講者の中で「講習会の案内があったら教えて欲しい」と要望のあった方に対しメール又は資料を郵送する形で周知を図った。

関係機関	
仙台市障害者就労支援センター	宮城県障害者福祉センター
仙台市障害者総合支援センター	宮城県障害者総合体育センター
仙台市精神保健福祉総合センター	宮城県障害者福祉協会
泉障害者福祉センター	宮城県難病相談支援センター
太白障害者福祉センター	宮城障害者職業センター
若林障害者福祉センター	みやぎ障害者 IT サポートセンター
宮城野障害者福祉センター	宮城県リハビリテーション支援センター
北部発達相談支援センター	みやぎ NPO プラザ・情報ネット
南部発達相談支援センター	仙台西多賀病院
仙台市障害者スポーツ協会	ひなたぼっこ
仙台市福祉プラザ	フォーレスト在宅支援ステーション
仙台市難病サポートセンター	エムツー訪問看護ステーション
泉区役所	Manaby 長町駅前事業所
宮城野体育館	フロンティアリンク株式会社

＜講座内容と受講後アンケートについて＞

2022 年度に注力したテーマとして、より活発な工房活動を図ることとし、このため、工房活動と連動させた講座内容を企画した。

2 次元 CAD に関する入門・応用講座では、キーガード製作時の製図をテーマに取り組んだ。このキーガード製作については長年の製作の実績があるが、新たに担える人材の育成が課題になっていたことから実施の運びとなった。

デザイン関連のビットマップ画像編集、デザイン概論、動画編集、ベクター画像編集の 4 講座については、基礎力の向上や新規の参加者の獲得に合わせて、将来の工房活動で取り組んでいきたいと考えている動画編集をテーマとして企画した。

HTML・CSS 講座では、Web ページ製作について、従来の講座内容から変更を加え、書き換え編集と更新を行う OJT 的な手法を反映させた。

その他、オンラインによる受講者が大多数を占めたため、会場での対面開催時に配置していたサポーター制を廃止した。この結果、サポーター配置のための費用予算の代替として、2次元CADとデザイン講座の2つの補講を実施した。補講の2次元CADでは、JWCADで描いた図面をイラストレーターで読み込み、加工用機器を制御するための作図に受講者が取り組んだ。また、デザイン講座の補講では、これまでの学習事項の復習として、パンフレットの版下作りと動画編集に受講者が取り組んだ。

各講座を終了するにあたってはアンケートを実施し、受講者の満足度等を把握することとした。アンケートの集計結果は下表の通りとなった。

アンケート質問項目		集計結果	
		26	81%
開催方法について Zoomと対面による ハイブリッド開催	受講しやすい（Zoomでの受講）	25	96%
	受講しやすい（対面での受講）	1	4%
	受講しにくい（Zoomでの受講）	0	0%
	受講しにくい（対面での受講）	0	0%
開催日時について	参加しやすい日程だった	23※	88%
	別の日程が参加しやすい	7※	27%
講習会の難易度について	簡単	1	4%
	ちょうど良い	19	73%
	難しい	6	23%
内容について	知りたい内容だった	20	77%
	想像していた内容と異なっていた	4	15%
	どちらでもない	2	8%

※1 講座のみ、4名の受講者が両方にマーク

アンケートの結果より、受講しやすく、参加しやすい日程で、難易度が丁度よく、知りたい内容だったとする回答率が高かった。このため多数が「満足」していたとうかがうことができる。反面、内容が難しい、想像していた内容と異なっていたなど、無視できない印象度の割合となったため、改善を図る余地が残されている。

1. 1. 2. 宮城県委託分（みやぎ障害者ITサポートセンター）

みやぎ障害者ITサポートセンター事業として、昨年度と同様、集合講習である障害者ITスキルアップ講習と集合講習に参加が困難な方向けの障害者IT訪問講習の2つに取り組んだ。

<障害者ITスキルアップ講習>

ここでは、基礎技能の習得を目的にした集合講習と、スキルアップのための集合講習を実施した。今年度は、全31回の講習で119名の受講（仙台市28件、富谷市3件）があった。講習終了後は、受講者に対するアンケートや講師提出の講習日報等の意見を取りまとめて次講習の参考とした。

障害者手帳種別に集計した実施状況は、下記の通りとなる。

手帳種別	回数
療育	8
精神	2
療育と精神の混合	6
身体と精神の混合	6
身体と精神と療育の混合	9

＜障害者向けパソコン訪問講習＞

IT の利活用能力を向上させることにより、在宅での就労や社会参加の可能性を拓けるべく、IT 講習会等の**集合講習に参加することが困難な県内に居住する肢体不自由者・視覚障害者・精神障害者・発達障害者を対象**に、講師が受講者宅に訪問、もしくは受講者の利便性に配慮した会場を選定し、1 人あたり 3 時間×2 回以上を基本として、障害程度と身体状況により適宜時間と日程を調整しつつ実施した（仙台市 16 件、多賀城市 1 件、白石市 1 件、富谷市 1 件、柴田町 1 件）。

障害者手帳種別の実施状況は下表の通りである。

手帳種別	人 数
身体	14 名
療育	3 名
精神	2 名
身体、精神	1 名
	計 20 名

1. 2. IT サポート事業

IT サポート事業では、仙台市委託分（**仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター**）と宮城県委託分（**みやぎ障害者 IT サポートセンター**）として取り組んだ。

1. 2. 1. 仙台市委託分（仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター）

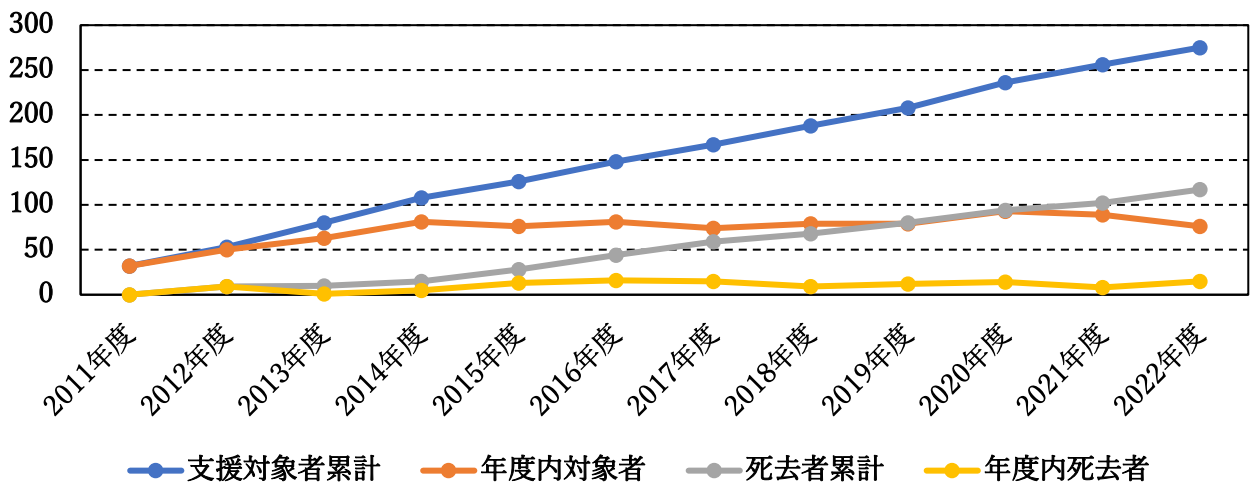
仙台市重度障害者コミュニケーション支援センターでは、感染症対策の一環として、本事業の管轄である仙台市障害者総合支援センターより**無期限の訪問自粛**の指導があった。これにより、訪問支援の一部は見直し、感染症の拡大防止に努めた。今年度と昨年度の支援業務の実績を下表に示す。

年度	支援対象者数	対 応 状 況		
		訪 問	訪問準備	電話・メール
2022 年度	76 名	575 件	316 件	237 件
2021 年度	89 名	889 件	535 件	279 件

コロナ禍の無期限自粛期間が長引いたこともあって、支援対象者数と対応数、訪問準備の件数がいずれも昨年度を大きく下回る結果となった。

なお、これまでの支援対象者数の推移は下図の通りである。

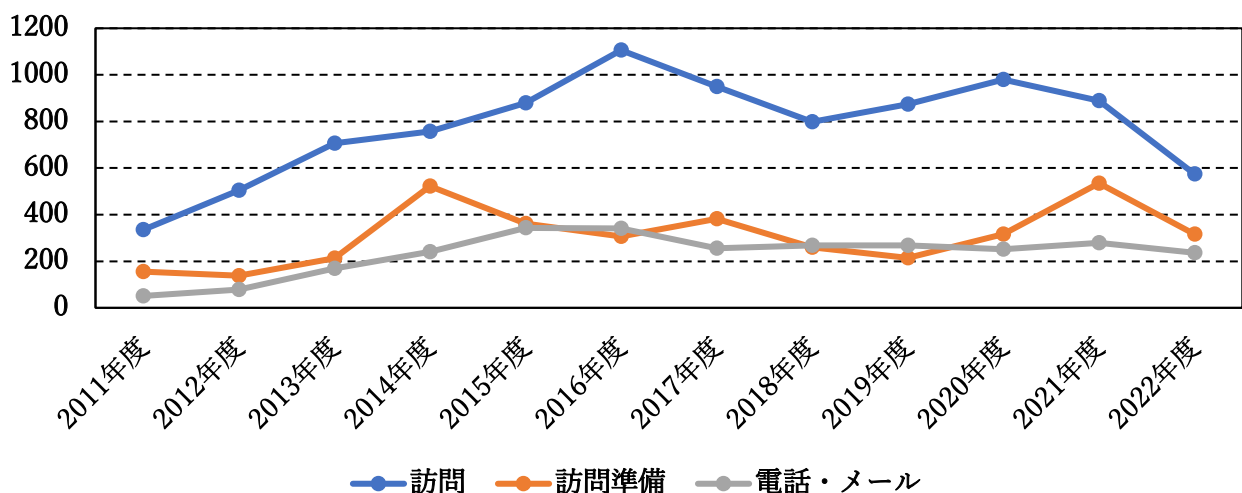
<支援対象者数等の推移：人数>



支援対象者累計の 275 名の疾病別では、ALS が 142 名と半数以上を占め、続いて多系統萎縮症 30 名、頸髄損傷 18 名、筋ジストロフィーが 12 名等の状況となっている。

一方、対応状況のこれまでの推移は次図の通りとなっている。

<対応状況の推移：件数>



訪問件数は 2021 年度の 889 件から 575 件へと大きく減少し、2021 年度とともにコロナ禍の著しい影響が伺える結果となった。訪問件数の減少のため、訪問準備もまた減少することとなった。ただし、業務を兼担していた事務局長の訪問件数が、年度後半に他職員と比較して大きく遅れを取ったことも訪問件数減少の一因となった。これらに対して、電話・メールによる相談対応については、さしたるコロナの影響が無く、過去と一定の水準の結果となり、コロナの影響は無かったと見られる。

なお訪問先の内訳は、利用者宅が 480 件（前年度 699 件）、入院先医療機関が 60 件（前年度 63 件）、施設等が 35 件（前年度 127 件）となっており、とりわけ、利用者宅と施設等で活動自粛により大きな影響を受けた結果となった。

2022 年度の新たな試みとして、ALS をはじめとした神経難病患者等の支援実績がある病院、施設をはじめとした関係機関に対してコミュニケーション支援機器の貸し出しを行

った。感染症対策の影響で現場への立ち入り（面会）が制限されたとしても、現場の支援が継続されるような土台形成を目指した。この結果、関係機関の作業療法士や言語聴覚士といった専門職のスキルアップや、当センターとの連携強化に繋がったと考えられる。

2022年度は、仙台市障害者総合支援センターからの要望で、**注力した4つの取り組み**と各目標を次の①～④とした。

- ①障害児のコミュニケーション支援（相談件数や支援ニーズの「見える化」が狙い）
- ②支援機器の開発（目標：50件）
- ③人材育成（目標：25件）
- ④情報発信（ホームページの更新）

これら①～④の結果概要は下記の通りである。

① 障害児のコミュニケーション支援

北部アーチルの職員3名から8件、訪問看護ステーションの作業療法士1名から3件、当事者の保護者1名から1件、**計12件の相談**を受けた。相談内容は下表の通りである。

相談者	相談内容	相談件数
北部アーチル A氏	視線入力に関する相談	2件
	機器の借用の相談	
北部アーチル B氏	スイッチの相談	3件
	視線入力に関する相談	
	iPadをスイッチで操作したいという相談	
北部アーチル C氏	タブレットPCをスイッチで活用したいという相談	3件
	iPadをスイッチで操作したいという相談	
	機器の借用の相談	
訪問看護ステーション	視線入力の相談	3件
	視線入力用のゲームの相談	
	視線入力の訓練の相談	
当事者の保護者	音声出力ソフトウェアの相談	1件

②支援機器の開発

継続支援を提供する中で、**モノづくりを実践した件数は54件**となった。内訳は下表の通りである。

モノづくりの総数		54件
内容	作成	27件
	加工	27件

③人材育成

人材育成の機会を「現場の介護者等のスキルアップを目的とした研修会の実施時」、「職員のスキルアップを目的とした研修会への参加時」、「関係機関からの講習依頼に応じた講師（職員）の派遣時」の3つに分別し実施した。それぞれの**実施件数総数は17件**という結果であった。内訳は下表に通りである。

人材育成の機会	実施（参加）件数	派遣職員人数（延）	会場の人数（合算）
研修実施	9件	9名	23名
研修参加	2件	3名	120名
講師派遣	6件	14名	159名

④情報発信

当センターのホームページは、バーチャル工房事業で管理しているサーバ内に設置されており、これを通じてホームページ運営を実施してきた。このため、ホームページの更新は、バーチャル工房事業の担務者に依頼する格好で実施した。

具体的には、当センターの実績紹介のページにおいて 2021 年度末のデータについて、従事する職員を 2022 年度時点へと修正した。ホームページの更新が、バーチャル工房事業で求められているセキュリティ対策に則って作業することになったため、**ホームページを更新する担務者に依頼する運営体制となった点は見直すべき課題**として残された。

1. 2. 2. 宮城県委託分（みやぎ障害者 IT サポートセンター）

みやぎ障害者 IT サポートセンターでの IT サポート業務として、①相談支援、②情報提供・普及啓発業務、③就労支援業務、④IT 支援ネットワーク構築業務のそれぞれに取り組んだ。それぞれの業務結果については下記の通りである。

①相談支援業務

サポートセンターでは相談依頼に対して、電話・FAX・電子メール・窓口来所により相談を受け付けているが、これらで対応できない場合は依頼者宅へ相談員が直接訪問するという形でサポートを行った。

2022 年度の**相談対応件数は 549 件**（前年度 575 件）、**月平均 46 件**（前年度 48 件）であった。従って、コロナ禍の影響についてはそれほど無かったと言える。対応方法の内訳は下記の通りであった。

訪問	来所	メール	電話	オンラインツール
130	21	124	272	2

②情報提供・普及啓発業務

サポートセンターには、情報提供・普及啓発のために、肢体不自由者向けの各種トラックボール、スイッチ等の入力支援機器、難病患者等重度肢体不自由者向け意思伝達装置、Windows 操作支援等の支援ソフトウェア、聴覚障害者向け音声認識ソフトウェア、視覚障害者向けスクリーンリーダー等の各種音声対応ソフトウェアなど、これらをインストールしたパソコンを**常設展示**している。また、相談者が実際に試用できる環境を整え、要望に応じて、**障害当事者および病院等関係機関への貸し出し**を行った。2022 年度は、サポートや試用、修理代替、講習用などで**全 65 件の貸し出し**が行われた。

③就労支援業務

定期的にハローワークや関係機関へ出向き、求人票や職業訓練パンフレット等を入手し、対象となる相談者に提供し活用してもらった。就職活動時には諸機関と連携して支援を行い、就職後のフォローも継続している。

④IT 支援ネットワーク構築業務

サポートセンターで対応中の在宅あるいは長期入院、療養中の障害者に対する支援を円滑に進めるため、関係者（家族・ヘルパー・ボランティア・作業療法士等医療関係者・関係機関職員等）に対し、支援機器およびソフトウェアについて、必要に応じて説明を行った。

1. 3. パソコンボランティア養成等業務

パソコンボランティアについては、パソコンボランティアの登録者を派遣する①派遣業務と②養成業務の2つに取り組んだ。

①派遣業務

パソコンボランティア登録者の活動を支援するための事業である派遣事業を継続した。これまで通り、活動を必要としている当事者とのコーディネーション、ボランティア保険への加入、活動に要する費用等の支給などの業務や、登録者を対象にした継続研修を実施した。

2022年度は、**30名（前年度21名）の派遣希望者**に対し、**パソコンボランティア10名（前年度10名）により延べ74回（前年度65回）の活動**が実施された。加えて、一部の派遣希望者に対して、みやぎ障害者ITサポートセンター**職員による20回の訪問対応**も行われた。

また、**パソコンボランティア登録者に対する研修会を実施**した。2022年度は感染拡大防止を図るため個別対応とし、内容と実施場所については参加者の希望を優先して実施した。研修**受講者は計5名**であった。

②養成業務

障害者の福祉に理解と熱意を有し、情報通信技術に一定の知識・技能を有する者に対して、障害者のパソコン機器等の使用支援に必要な技術等の習得を目標とするパソコンボランティア養成講座と、パソコンボランティア養成学習会を実施し、パソコンボランティアを養成した。実施にあたっては、前年同様、**宮城県障害者福祉協会への再委託**とした。

パソコンボランティア養成講座は、仙台市宮城野区内の宮城県障害者福祉センターを会場に、基礎課程、中上級課程の計4日間の養成講座を開催した。**養成講座への問合せ者は8名で、実際の受講者は5名**であった。全員が**県政だよりの広報**記事を読んだことによる問合せであったことから、県政だよりを通じた講座開講の案内掲載の成果を測ることが出来た。

各課程終了後の講師への質問と応答から、受講者5名ともボランティア活動を通して社会貢献したいという思いや考えが伺われた。なお、**受講者3名は自ら身体等に障害がある方々**であり、当事者参加の視座から、パソコンボランティア活動を捉えていたようであった。全課程修了の受講生は5名中4名であった。

また、パソコンボランティア**養成学習会**は、医療的ケア児等重度肢体不自由児を受け入れている放課後等**ディサービス事業所職員を対象として実施**した。**受講者は5名**であった。

これらパソコン養成講座と養成学習会の実施概要は下表の通りである。

＜パソコンボランティア養成講座の実施概要＞

	期 日	講 師	受講者
基礎課程	9月3日	・宮城県障害者福祉協会 ・仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター ・メイ・ソリューション株式会社 末田 耕司 堀米 香菜 木島 真央	5名

中上級課程	9月17日	9月17日（土） ・東北福祉大学 情報福祉研究室	高橋 俊史	4名
	10月1日	・パソコンボランティア実践者	田辺 治	
	10月15日	・仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター	木島 真央	
		10月1日（土） ・仙台市視覚障害者福祉協会	鳴原 真一	
		・相談支援事業所 おもいやライフ	高橋 壮	
		・宮城県障害者福祉協会	末田 耕司	
		10月15日（土） ・楽暮プロジェクト	竹島 久志	
		・宮城県障害者福祉協会	末田 耕司	

＜パソコンボランティア養成学習会の実施概要＞

	期 日	講 師	受講者
応用課程	2月19日	・楽暮プロジェクト 竹島 久志	5名

1. 4. IT 支援関連事業

IT 支援関連事業では、**意思伝達装置等の機器販売**ならびに**収入獲得支援**に取り組んだ。

1. 4. 1. 意思伝達装置等の機器販売

昨年度に引き続き、2022 年度も仙台市内での機器販売を中心に取り組んだ。最終的に**全 23 案件（前年度 21 案件）**となり、個人 17 案件（前年度 20 案件）、障害者支援施設 4 案件（昨年度なし）、企業 1 案件（昨年度なし）となった。取り組みにあたっては、仙台市重度障害者コミュニケーション支援センター職員と連携した動きとなった。**特筆すべきなのは、障害者支援施設からの引き合い**があった点であり、将来に向けた機器販売の可能性が期待できる結果となった。

引き合いのあった機器の内訳は、「**伝の心**」3 件（前年度 7 件）、「オペレートナビ」3 件（前年度 3 件）であったのに対して、スイッチ・インターフェス等周辺支援機器の件数がかなり多くなった。このため、**売上総額は 2021 年度より 4 割程度の減少**となった。

1. 4. 2. 収入獲得支援

前年度同様、キーガード製作ならびに印刷関連の受注に対応した。

キーガード製作については、キーボードを採寸して作るオーダーメイド品が 1 件と、キーボードとセットのキーボード付きキーガードが 1 件の**計 2 案件**（前年度 7 件）となった。**印刷関連**については、スポーツ団体から**1 件**（前年度 3 件）の依頼となった。

キーガード製作	発注者	
	山形県（個人）	
	埼玉県（個人）	
	2 件	
印刷関連	発注者	業務内容
	スポーツ団体	表彰状印刷
	1 件	

2. 福祉支援事業

2. 1. 自助自立のための支援事業

本年度は協議のみ。

2. 2. 福祉支援関連事業

福祉支援関連事業として、例年通り「障害者作品商品化・販売事業」を継続した。その結果、教員からの発注数として、**福祉名刺は 68 件・77 セット**（前年度 56 件・61 セット）の注文・販売が実現した。

3. 各種委託事業

各種委託事業として、引き続きホームページ制作・更新業務委託と、パシフィックサプライ株式会社（大阪府）から受託した重度障害者用意思伝達装置「伝の心」の顧客センター業務に取り組んだ。

3. 1. ホームページ制作・更新業務委託

多くの案件について、就労継続支援 B 型事業所の利用者に作業を移行させて対応したため、法人独自での対応は、更新作業のサポートや保守を主とする下記の 3 件であった。

発注者	業務内容
団体	HP 更新・保守
団体	HP 更新・保守
団体	HP 更新・保守
3 案件	

3. 2. 伝の心顧客センター業務委託

パシフィックサプライ(株)から受託した顧客センター業務として、伝の心に関する**電話相談対応業務**、およびコミュニケーション機器の**検品作業**を継続して実施した。

<電話相談対応業務>

電話相談の対応を行った件数は、**前年度の 166 件から 210 件へと増加**した。対応内容については主に、「伝の心」の**メール機能に関する電話相談が最多の 51 件**、続いてスイッチに関する相談が 26 件、視線入力に関する相談が 21 件、バックアップに関する相談が 14 件となった。**Gmail の設定仕様が変更されたことにより、伝の心で使用できなくなったため**、メール送受信に関する問い合わせの件数が増える傾向が見られた。なお、Gmail の設定については、伝の心で推奨される **Yahoo メールへの移行を促すことで対応**した。月別対応件数については、下記の表の通りである。

月別電話対応状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計 (件)
2021	18	15	18	15	10	14	18	10	18	10	11	9	166
2022	13	12	41	11	20	15	13	17	25	11	10	22	210

＜検品業務＞

電話対応の待機時間を活用し、返却された各種コミュニケーション機器の検品業務にもあたった。コロナ禍のためにデモ機の貸し出す機会が減った影響か、検品数については若干減少傾向となった。

電話対応に時間を要し、十分な検品時間が取れなくなる場合があったが、検品作業が達成できない場合は、翌日の担当者に引き継ぐことで勤務時間内に検品を達成することができた。月別の検品状況は下表の通りである。

デモ機 月別検品状況（ダブルチェックを含めた回数）

機材	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
伝の心	9	11	13	14	16	13	14	15	22	7	17	10	161
SW	0	4	10	9	5	6	9	3	7	9	9	5	76
デモ機	48	48	63	57	39	42	48	60	47	26	54	42	574

＜コロナ禍の影響＞

コロナ禍の影響か、直接「伝の心」に携わっている支援者ではなく、**販売店や家族を経由しての連絡が多い傾向**が見られた。このため、現場で「伝の心」を**触ってもらいながらの電話サポートができず**、又聞きの情報による対応が増えた事で、リアルタイムの正しい情報が得られず、**解決に時間を要する傾向**が見られた。

＜視線入力について＞

視線入力装置のセッティングに関する問い合わせが増加している傾向が見られた。対応者が十分な研修機会を受けられない状態が続いたことから、電話サポートが困難な場合にパシフィックサプライの担当者に相談する機会が増えた。また、視線入力使用者によるLINEを使用したいとの要望連絡が何件かあったが、視線入力タイプの伝の心ではLINE専用の文字盤をサポートしていないため、それを理解してもらうための説明に時間を要したことがあった。

＜今後の課題＞

・電話相談対応業務

回答が難しい場合は法人内の各職員と連絡を取り合い、可能な限り解決への道筋を伝えられるよう、連携をより深める。また、利用者からの電話対応について、問い合わせの内容がカスタマーセンターの範疇なのかどうかを見極める必要がある。

・検品業務

個人情報に留意しつつ、正確な検品作業を維持する。**検品物が増えた際には、法人担当者との連携して取り組むよう心掛け、従事者の身体的に負担にならない配慮**を行う。

・視線入力について

定期的に研修の機会を設けるなど、視線入力装置特有の操作方法について、従事者が十分に学べる環境が求め荒れている。このための実機導入については引き続き交渉中である。

・カスタマーセンター用「伝の心」について

経年や「伝の心」のバージョンアップにより、カスタマーセンター内の「伝の心」とユーザーとの「伝の心」の間で機能の差が目立ち始めている。**新バージョンの伝の心の配備**について委託元に相談中である。

・担当責任者変更について

カスタマーセンター業務を担当していた責任者が退職したため、新たな責任者が配置された。引き続き委託事業を継続できるよう、**新たな業務体制再構築**を図る。

4. 資格認証事業

4. 1. 重度障害者 ICT 支援コーディネータの資格認証事業

重度障害者 ICT 支援コーディネータの資格認証事業については、**6名からの新3級の申請**があり、申請者6名全員に対し資格認証を行った。(前年度実績3名)

5. 障害福祉サービス

5. 1. 障害者就労継続支援 B 型事業所

就労継続支援 B 型事業のサービス提供の 2022 年度実績としては、**延べ利用者数が 2018 年度に開所して以降の最多**となった。他方、相談や訪問の件数については減少した。

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	前年度比
サービス提供日数	238 日	226 日	230 日	233 日	233 日	0 日ー
個別支援計画作成・見直し	17 件	28 件	26 件	30 件	10 件	20 件↓
アセスメント	11 件	4 件	1 件	4 件	0 件	4 件↓
モニタリング	16 件	43 件	35 件	27 件	11 件	18 件↓
面談・相談対応等	87 件	251 件	485 件	467 件	363 件	104 件↓
訪問対応	22 件	121 件	142 件	129 件	69 件	60 件↓
就職	0 名	0 名	1 名	0 名	0 名	0 名ー
登録利用者数 (年度内中途退所者含)	13 名	18 名	15 名	19 名	17 名	2 名↓
延べ利用者数	685 名	1,509 名	1,633 名	1,584 名	1,666 名	82 名↑

相談や訪問の件数が減少した理由として、通所を再開する利用者が出始めたことや、在宅利用者が使用しているチャットツールに慣れたため、軽微なトラブルには遠隔で対応できるようになったことが考えられる。また、利用状況として、**登録利用者数 17 名のうち中途退所者が 4 名**にのぼった。この理由としては、自身の体調や居住環境、心境の変化が挙げられた。なお、**登録利用者数は減少しているにもかかわらず、延べ利用者数が増加している理由としては、参加者の体調安定や工賃獲得の機会増加などによる出席率向上**が考えられる。

	目標	2021 年度	2022 年度	前年度比
1 日平均利用者数	10 人	6.8 人	7.2 人	0.4 人↑
年間平均出席率	—	69%	80%	11%↑

事業所の特色でもある「**在宅利用**」については、登録利用者が 4 名、新型コロナウイルスの影響による臨時利用者が 3 名の**計 7 名**となっており、延べ利用者数 1,666 人のうち**1,024 人 (61.5%)**を占めている。

利用者獲得に向けての動きとしては、前年度同様、対面での周知活動を避け、各区役所や相談支援事業所へのパンフレット等資料配布、Twitter や Facebook、Web ページを用いた情報発信等を行った。その結果、問合せ 12 件、見学 2 件、体験利用 1 件が得られた。

工賃の発生する作業については、例年行っているカッティングシート加工・ホームページ制作/更新作業・アンケート集計作業のほか、前年度より取り組み始めたウェブアクセシビリティ検査業務に加え、2022年度は、初年度以降となる3Dモデル作成・出力の受注や、メール送信代行作業を請け負った。とりわけ、**メール送信代行業務の作業件数が際だって多かった**ため、作業件数が激増する結果となった。

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
カッティングシート加工	12	8	4	4	6
文字・音声データ入力	16	16	13	12	1
3Dモデル作成・出力	11	0	0	0	2
ホームページ制作・更新作業	15	39	67	39	23
動画のデジタル化	5	1	0	0	0
アンケート集計作業	3	5	2	3	3
大判印刷	2	1	0	0	1
写真撮影	2	0	0	0	0
パンフレット立て作成	1	0	0	0	0
機器販売事業書類等作成作業	3	0	0	0	0
封入作業	—	1	0	0	0
画像加工	—	1	0	0	0
ウェブアクセシビリティ検査業務	—	—	—	11	12
キーガード制作関連	—	—	—	1	1
チラシ作成作業	—	—	—	3	0
描画・デザイン作業	—	—	—	1	1
メール送信代行作業	—	—	—	—	447
計（件数）	70	72	86	75	497

<工賃の向上>

2022年度は、単価の高い作業に取り組む機会が多かったため、**目標を上回る平均工賃月額を実現**できた。

	計画	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績	前年度比
平均工賃月額	5,000円以上	2,342円	4,883円	6,384円	1,501円↑

<技能訓練>

書類作成、画像加工のほか、Web系の依頼が大半を占めるため、ホームページ作成やウェブアクセシビリティ学習のプログラムを提供した。また、業務遂行に必要な技能を身につけるために、個に応じたメモの取り方やマニュアルの作成、作業内容の振り返りを行うプログラムを提供した。

<課題>

今後の課題としては、**新規利用者の獲得**、**利用者の就労継続支援A型事業所や就労へのステップアップ**、利用者への**工賃のさらなる増額**、**職業指導員ならびに生活支援員不足の解消**等が挙げられる。

6. その他 助成事業等

6. 1. ソフトバンク・ソーシャルチャレンジ

これまで、難病当事者等が療養している在宅からPepperを遠隔で操作するといったアバター的活用を試みてきたが、2022年度がソフトバンク・ソーシャルチャレンジの最終年度となった。

コロナ禍となってからは、当初計画したような**実証試験の実施**について、難病当事者や支援者等からの理解を得ることが難しく、**計画は断念**せざるを得なかった。

一方、**東北福祉大学の情報支援応用実習**の時間を活用し、授業を受講している学生等に対し、**ロボットプログラミングの体験の機会**を設けた。近い将来、生産年齢人口がさらに減少すると仮定し、「人の代わりにこういった形でロボットが就労の場で活かせるか」をテーマに、Pepper 用ロボアプリの作成を受講学生等と行った。受講学生等が作成したロボアプリの成果物は授業内で発表してもらい、ロボアプリの効果や考察等をディスカッションし、ロボットの可能性について理解を深めるといった取り組みを実施した。

特定非営利活動に係る事業

2022年4月1日～2023年3月31日

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲 および人数	支出額 (千円)
1. 1. IT講習事業	1. 1. 1 仙台市委託分			延99人	障害者171人	713
	2次元CAD入門講座	7/21・22	宮城県障害者福祉センター	2人	障害者4人	
	2次元CAD応用講座	7/28・29	同上	2人	障害者3人	
	ビットマップ編集講座	5/4・5	同上	2人	障害者3人	
	デザイン概論	9/1	同上	2人	障害者5人	
	動画編集講座	9/5・12, 10/3	同上	2人	障害者3人	
	ベクター画像編集講座	9/10・11	同上	2人	障害者5人	
	HTML・CSS講座	12/2・9・ 16・23	同上	1人	障害者3人	
	以上の講座はすべて、対面とオンライン併用のハイブリッド運営					

	補講：2次元CAD講座	1/27, 2/4	オンライン	2人	障害者3人	
	補講：デザイン講座	2/3・10・17	宮城県障害者福祉センター（ハイブリッド）	2人	障害者3人	
	1. 1. 2. 宮城県委託分					
	スキルアップ IT講習 31回			延べ62人	障害者119人	
	訪問講習 20人分	4/1-3/31（随時）	県内各地	延べ20人	障害者20人	
1. 2. ITサポート事業	1. 2. 1. 仙台市委託分	4/1-3/31（随時）	仙台市内及び入院先医療機関 訪問支援 575件 訪問準備 316件 電話・メール 237件	9人 5人	障害者延べ625人 障害者76人	7,051
1. 3. パソコンボランティア養成等業務	1. 2. 2. 宮城県委託分	4/1-3/31（随時）	宮城県内訪問130件 来所21件 メール124件 電話272件 オンライン2件	4人	障害者延べ49人 障害者33人 市民16人	3,333
	派遣業務派遣	個別対応	県内各所	24人 10人	障害者30人	
	登録者研修		県内各所	1人	市民5人	
	養成講座基礎課程	9/3	宮城県障害者福祉センター	4人	障害者3人 市民2人	
	中・上級課程	9/17・10/1・10/15	同上	7人	市民4人	
	応用課程	2/19	同上	2人	市民5人	
1. 4. IT支援関連事業	1. 4. 1. 意思伝達装置等の機器販売		仙台市	3人 1人	重度障害者17人 障害者2人 重度障害者17人	3,027

	1. 4. 2. 収入獲得支援 (依頼対応) キーガード製作	4/1-3/31 (随時)		2人	障害者支援施設 4カ所 企業1カ所 障害者2人	
			事務局 障害者宅			
2. 1. 自助・自立のた めの支援事業	※今年度は計画 協議のみ					
2. 2. 福祉支援関連 事業	障害者作品商品 化・販売事業: 福 祉名刺	4/1-3/31 (随時)	事務局	2人 2人	市民68人 販売68件	204
3. 1. ホームページ制 作・更新業務委 託	3件	4/1-3/31 (随時)	事務局	4人 1人	障害者1人 重度障害者延べ 249人	52
3. 2. 伝の心カスタマーセン ター業務委託	パシフィックサ プライ株式会社 電話対応	4/1-3/31	パシフィックサ プライ(株) 仙台営業 所	3人	伝の心ユーザー (重度障害者) 延べ210人	
4. 1. 重度障害者IC Tコーディネー タ育成資格認証	新3級認定	4/1-3/31	事務局	1人 1人	学生6人 学生6人	2
5. 1. 就労継続支援B 型	訓練業務 HP製作・更新 カッティングシート データ入力等	4/1-3/31	就労継続 支援B型事 業所「せん だい庵」	4人 4人	障害者延べ 1,666人 2023年3月末日 登録者数: 17名	1,824
6. 1. 助成事業	ソフトバンク・ソーシャル チャレンジ	4/1-3/31		1人 1人		